

明日へ チャレンジ



西川(株)
代表者
西川 修 氏

●企業名 西川株式会社 かほく市長柄町ワ117-2
TEL076(28)0218 FAX076(28)36800
●資本金 1000万円 ●雇用従業員 10名
●代表者 社長 西川 修氏 (38歳)
●創業 1960年3月
●業種 葬祭サービス業
●取材 広報委員 坂本 悟 (株)北陸アタッチメント

かほく市内の企業をシリーズで紹介しています。
今月は、葬祭サービスを営み、新たな葬儀の確
立を目指している企業をご紹介します。

瓦の需要が減少したこともあり、
地場の瓦製造業が衰退していっ
たことから、繊維産業の拡大
の波に乗ることで、繊維製造
業へと業種転換することになっ
たというわけです。

坂本 このあたりは、昔は瓦工
場が沢山あったことを憶えて
います。いつの間にか減少し
ていったように思います。また、
たしか花店も営業していたこ
とがありましたね。

西川 いまでもその取り扱い
はしていますが、繊維業を営
みながらお花を販売するサー
ビス業も営んでおりました。
そこでサービス業というもの
に関わったわけです。製造業
にはないサービス業独特のお
客様との触れ合いにとっても興
味を持ちました。お客様との
コミュニケーションが楽しくて、
一緒に添乗することでその楽
しさが共有できる旅行を斡旋
する旅行業もさせていただき
ました。

坂本 あっ、そうでした。一
緒に旅行したこともあり、そ
のときは楽しそうに添乗して
いましたね。その後なぜ、こ
の仕事をすることになったの
ですか。

西川 そうですね。当初、こ
の場所が荒地になったことを知っ
たときは、お花の販売店とし
て店舗を構える予定でした。
しかし、なにかそれとは違う
ことをやりたいという思いが
あり、葬祭のサービスの仕事
を考えていると言ったときは、
周囲からは猛反対にありました。
なぜかという、その時は
まだ葬式といえ、集会場か
お寺で行われているような時
代でしたから、なんで葬祭業
なんかというふうに思われて
いたようです。

坂本 実際にやってみて、苦
労などはありましたか。

西川 そうですね、よく聞か
れる言葉に3Kというのがあ
りますが、労働環境・作業内



容が「きつう(Kitsui)」「汚
い(Kitanai)」「危険(Kiken)」
であることを意味する言葉です。
その3Kをもじったもので「き
つい(Kitsui)」「暗い(Kurai)」

「帰れない(Kaerenai)」とい
うイメージが葬祭業にはあり
ました。だから、本心から言
えばとても地味な職業で嫌に
なることもありました。暗い
イメージがする職業なので、
周囲からは嫁が来なくなるの
ではないかと、心配されたほ
どでした。その職業としての
印象の悪さからいろいろ辛い
時代もありましたが、しかし、
あの映画「おくりびと」が全
国的にヒットしたあたりから、
一般のひとたちの「葬祭に携
わる人」の意識が急に変わっ
てきたように思います。

坂本 あの映画は人の「死」
に対して真摯な態度で向き合っ
ていたので、職業人としての

演技に感動したことを憶えて
いますが、それからどのよう
に変わりましたか。

西川 はい、あのときあたり
から葬祭業が人の職業として
見直されるきっかけになった
ように思います。お客様の態
度が葬祭業を職業として意識
していただけるようになった
ことです。また、葬儀場は集
会場やお寺から取って代わっ
たわけではないのであって、
時代の流れがそのような傾向
にしたように思います。そして、
そのことがお客様のニーズに
対応できたように感じます。
当然、高齢化もその理由の一
つですが、核家族化により高
齢者を取り巻く家族環境の変化、
少子化による親戚縁者の減少、
隣近所との付き合いや町内会
活動が減少したことにより人
間関係が希薄になったことなど、
社会情勢が急速に変化したこ
とがあげられます。そのため、
葬儀場を利用する人が急速に
増えたのだと思います。

坂本 なるほど、昔と違って
きていることは確かに感じら
れます。この仕事を通じてな
にか思うことはありますか。

西川 そうですね。葬儀場は
暗いイメージがありますが、
その暗いイメージを払拭する
ことで、いつでもだれでも気
軽に相談できるシステム作り
を目指していきたいと考えて
います。それゆえ、特に社員
教育には力を入れて資質向上